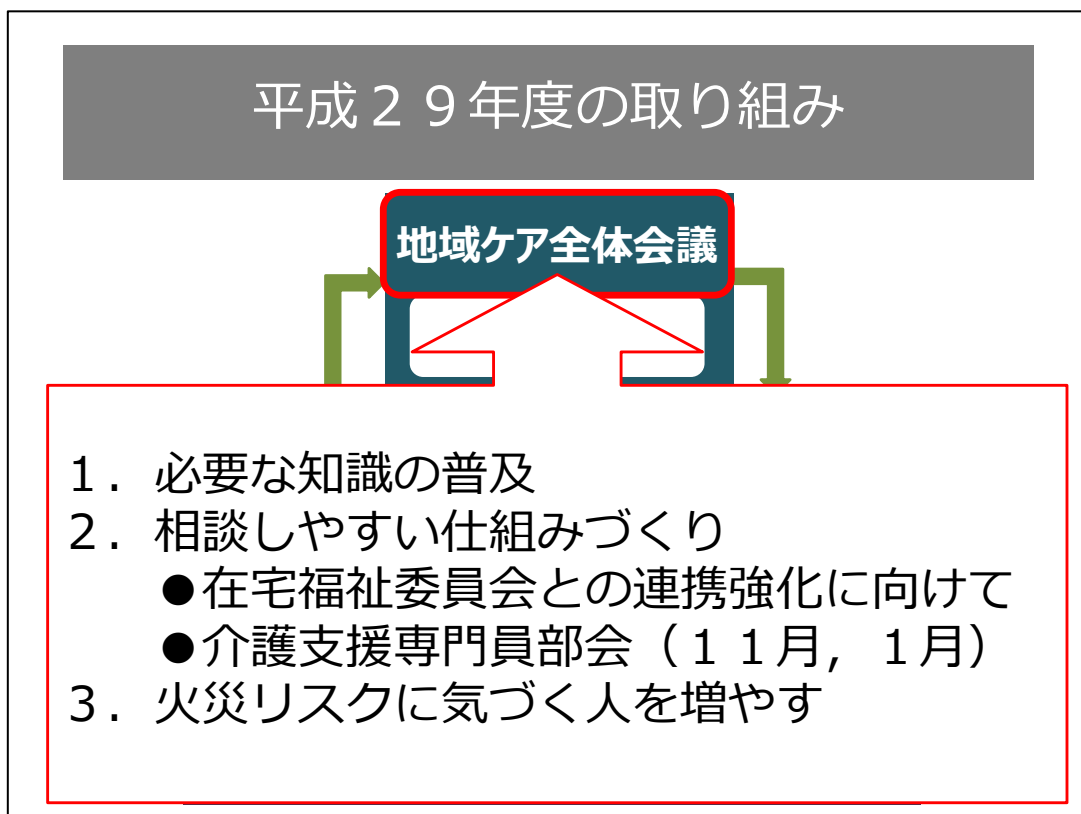
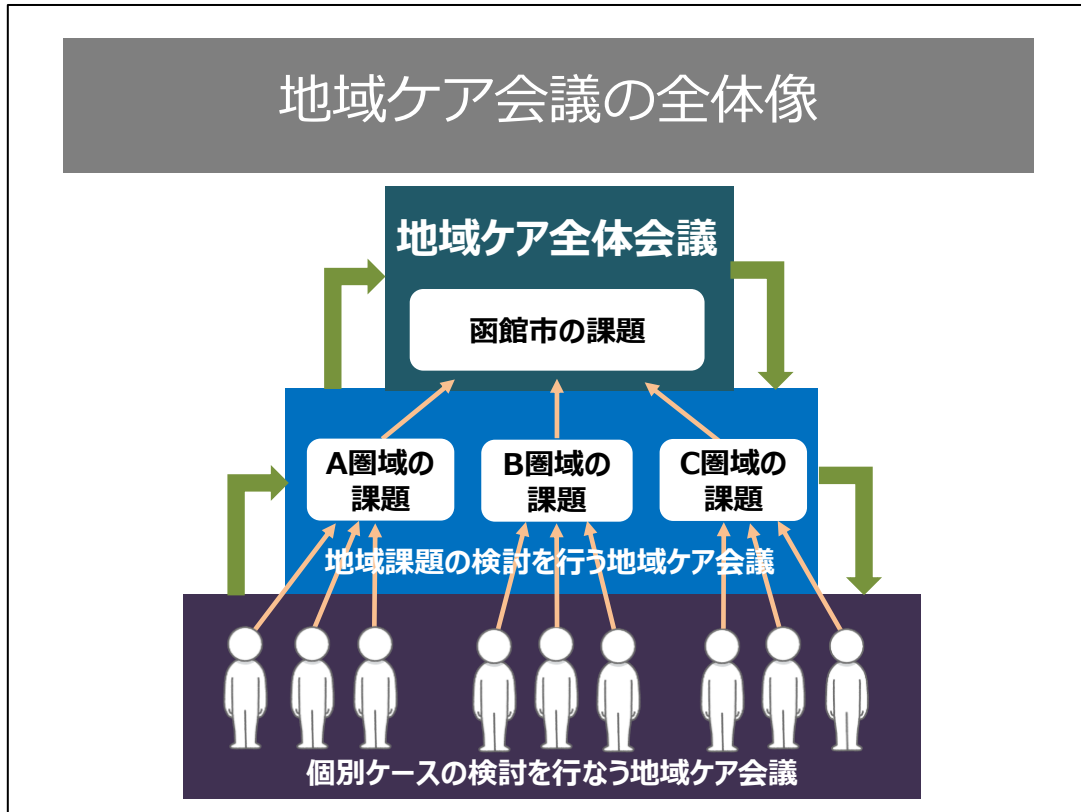


平成29年度 函館市地域ケア会議について



1. 必要な知識の普及

○認知症サポーター養成講座



2. 相談しやすい仕組みづくり 在宅福祉委員会との連携強化に向けて

○川原町在宅福祉委員会との意見交換

○社会福祉協議会との意見交換

2. 相談しやすい仕組みづくり 介護支援専門員部会

【 目 的 】

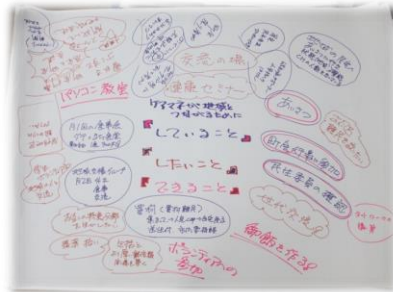
「認知症になっても住み慣れた地域でその人らしい生活を営むために、住民、関係機関、行政の総合力による地域づくり」の一つとして、介護支援専門員と地域がつながる仕組みをつくる。

2. 相談しやすい仕組みづくり 介護支援専門員部会

【第1回】

- 11月11日（土）13：30～17：00
- 北海道教育大学函館校特別教室
- 参加状況
 - ・居宅介護支援事業所等の介護支援専門員
75人（131事業所中49事業所）
 - ・地域包括支援センター
10人（その他スタッフとして10人）

2. 相談しやすい仕組みづくり 介護支援専門員部会



2. 相談しやすい仕組みづくり 介護支援専門員部会

【第2回】

- 1月26日（金） 13:30～17:00
- 函館市総合保健センター 2階健康教育室
- 参加状況
 - ・ 介護支援専門員（日常生活圏域から1人）
9人 ※東部圏域は都合が合わず不参加
 - ・ 地域包括支援センター
10人

2. 相談しやすい仕組みづくり 介護支援専門員部会



3. 火災リスクに気づく人を増やす

火の管理に関して高齢者と関わりのある事業所
へ認知症に関する正しい知識の普及・啓発

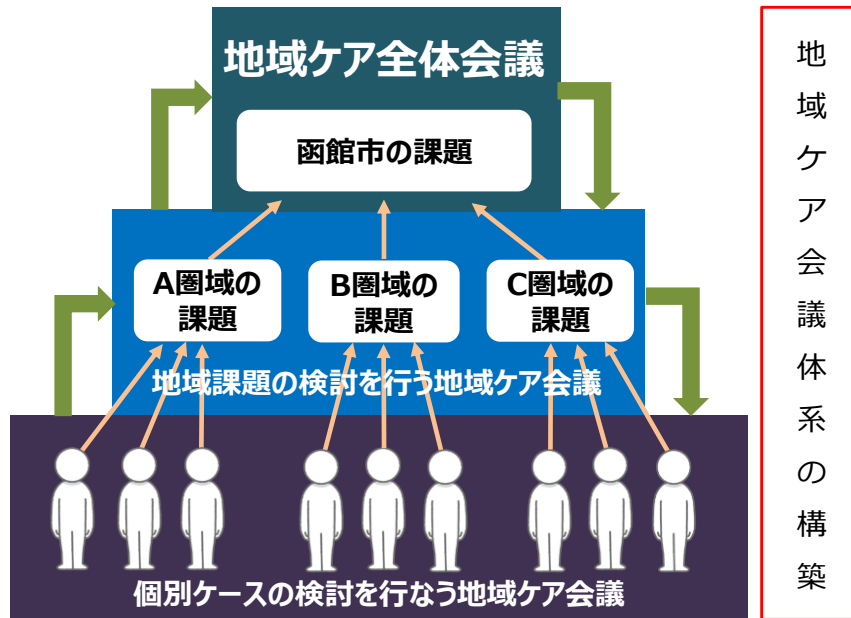
具体的には・・・

函館地方石油業協同組合,
北海道LPガス協会へ
認知症サポーター養成講座を勧奨

認知症サポーター
養成講座の実施に
ついて (お願い)



平成29年度の取り組み



地域ケア会議体系の構築

【 目的 】

地域ケア会議の機能が十分発揮され、効果的に会議を行う。

- ・ 個別課題から地域課題に転換する道筋を整える。
- ・ 圏域の地域課題から市全域の地域課題につなげる道筋を整える。
- ・ 多様な会議との組み合わせによって、政策形成につなげる道筋を構築する。

基本施策 1	個別施策(2) 地域ケア会議の推進
	ア 地域ケア会議の開催
	イ 地域ケア会議体系の構築

取組の内容

ア 地域ケア会議の開催

地域住民，民生委員・児童委員など地域の支援者や専門的視点を有する多職種の参画により，地域ケア会議を開催し，高齢者やその家族に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備を図るとともに，多職種・多機関が連携・協働し，地域包括支援ネットワークの構築を進めます。

(ア) 地域包括支援センターが主催する地域ケア会議

日常生活圏域において，地域住民および民生委員・児童委員などの地域の支援者，介護支援専門員等の多職種と連携・協働し，「個別ケースを検討する地域ケア会議」および「地域課題を検討する地域ケア会議」を開催し，個別ケースの支援を通じて，地域課題の把握を行うとともに，地域包括支援ネットワークの構築を進め，高齢者の自立支援や地域課題の解決に必要な社会資源の開発を推進します。

(イ) 市が主催する地域ケア会議(地域ケア全体会議)

日常生活圏域から抽出された地域課題を踏まえ，地域包括支援センターや関係機関，関連する会議体等と連携・協働し，『共に支え合うまち函館をめざして』をテーマに，「困った時に頼める人がいる」，「誰かの役に立っている」という市民が増えるよう，地域住民，関係機関，行政の総合力による地域づくりを行います。

トピックス

〔地域ケア会議〕

地域住民および民生委員・児童委員などの地域の支援者，介護支援専門員等の多職種が集まり，個別ケースの支援内容の検討や地域の課題について話し合う会議。高齢者個人に対する支援の充実とともに，それを支える社会基盤の整備を同時に進めること。地域包括ケアシステムを構築していくための手法のひとつ。



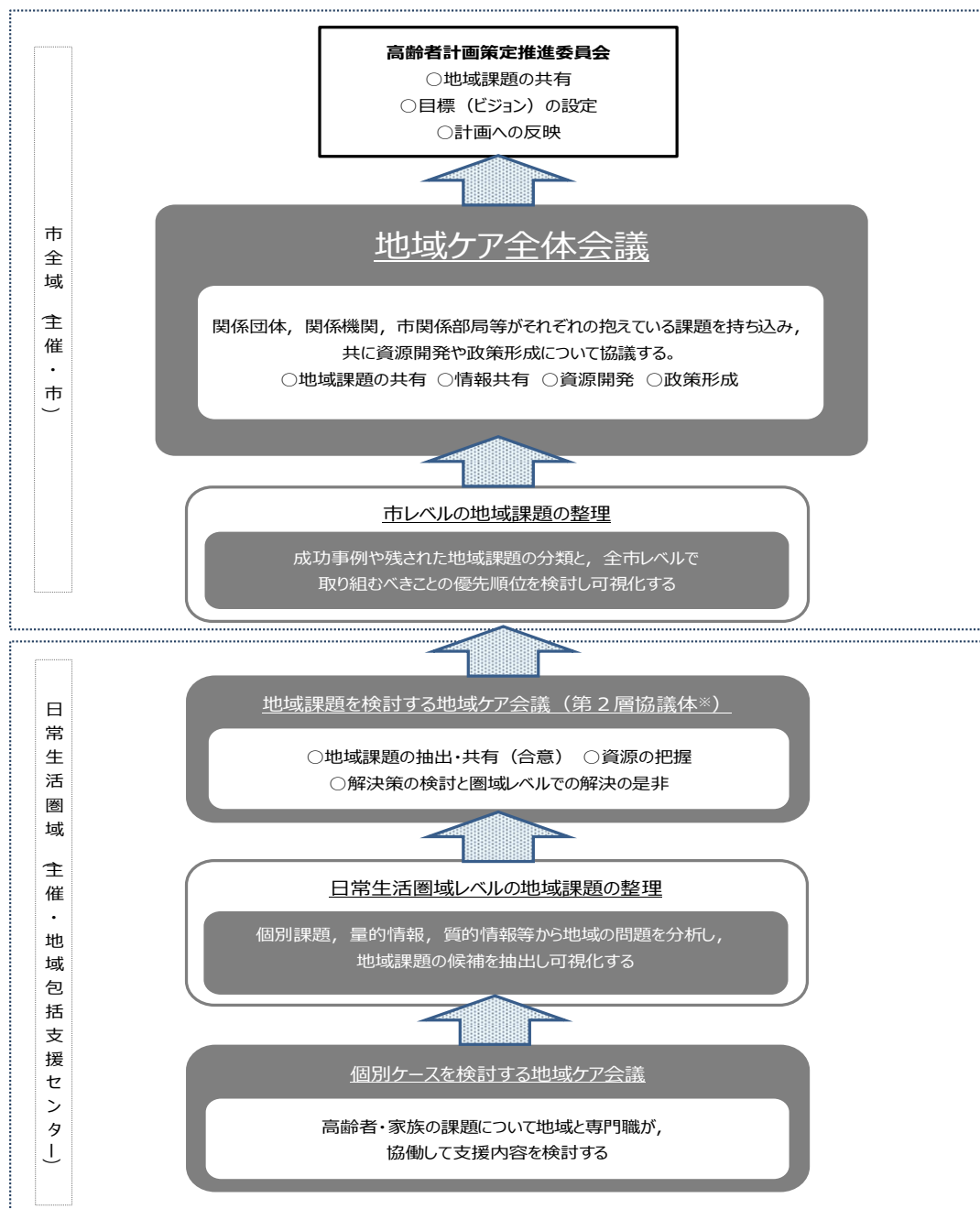
地域ケア全体会議の様子

取組の内容

イ 地域ケア会議体系の構築

地域包括支援センターと協働し、個別ケースを検討する地域ケア会議において自立支援型のケアマネジメント支援の視点を加えるほか、把握した地域課題の整理方法、既存の会議体等との連携体制を構築することについて検討を進めるなど、体系の構築と実効性のある仕組みづくりに取り組み、地域ケア会議の充実を図ります。

【函館市における地域ケア会議体系】



※生活支援体制整備事業における、日常生活圏域(第2層)単位に設置する協議体のことをいう。(42ページ参照)